

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・販売額は前年同月と比較し20%以上増加している。今まで慎重だった客も契約を急ぎだしている。
		一般小売店〔精肉〕(店長)	単価の動き	・ギフトなどの単価が上昇しているように感じる。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・以前と比較し、何か良いものがあれば購入したいという、若干の余裕が顧客から感じ取れる。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今の傾向からすると、客自身が多少上質な良いものを求めているようである。例えば、通常の倍以上する国産使用にこだわったタオルやバスタオル、あるいは寝具関係の敷布団においても10万円前後の国産の品質が良いものというような、こだわりや上質志向が多少出てきているように感じられる。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・昨年度の夏のクリアランスでは7月半ばスタートの売場が多かったが、本年度は6月28日スタートの売場が多く、月末3日間の集客を見込むことができたフロアでは、前年同月比105%の推移で終了しそうである。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・飲料やフライドフードなどに代表される粗利益率の高い商品が前年同月比100%を超えている。たばこなど利益率の低いもので売上を稼いでいた時代とは雰囲気違ってきており、喜ばしい状況になってきている。
		家電量販店(店長)	単価の動き	・良く売れている節電効率の高いエアコンは商品単価が高いので、前年からのテレビの落ち込みをカバーできている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・粗利率は下降気味であるが、新車や中古車の販売台数および売上高が計画を達成している。
		一般レストラン(店長)	来客数の動き	・来客数の動きは少し良くなっている気がする。また、客単価も上昇気味である。
		一般レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・来客数が若干上がり気味であることは間違いない。
		観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・総売上は前年同月比113%、宿泊人員は同111%、宿泊単価は同101%となった。要因は、Web予約では前年を下回ったが、外国人による宿泊の売上が同190%、人数が同170%と外国人が多かった点にある。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・高額商品や前年凍結の仕事が復活している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・夜の繁華街の来客数がわずかではあるが増えている。
		通信会社(職員)	お客様の様子	・中間層の客は、おおかた動向が好転しているように感じられる。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・展示場来場者数は減少しているものの、中長期管理先の消費税率引上げによる持家に対する意欲が強くなってきており、有効面談件数は増加傾向にある。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・消費税率引上げ前に住宅を建てたいと考えている人が多い。
変わらない		商店街(代表者)	競争相手の様子	・新幹線効果も駅前に限定的であり、相変わらず空き店舗が増え続けている。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・セール待ちの状況であるが、購入手段が増えているため、来客数の増加は難しい様子が、客の会話からもうかがわれる。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・例年より前倒しで夏のセールが始まっているが、にぎわいが少なく今一つ出足が悪い。普段より少し多い程度である。
		一般小売店〔事務用品〕(役員)	販売量の動き	・輸出入をするような大きな会社は好調な様子がうかがえるが、なかなかアベノミクス効果が県内全体には行き届いておらず、まだまだ主な取引先にはそのような需要や見込みがみえていない。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・夏のクリアランスセールが前年よりも2日前倒しとなり、販売量の動きが多くなると想定していたが、立ち上がり当初より少々苦戦をしている状態である。ランジェリーショップではパジャマがクリアランスセールの対象となっており、前年ないしおとしなどはクリアランスの初日より売上が増加傾向にあったが、今年は前年の売上は確保できているが、予算は厳しい状況となっている。

スーパー（店長）	単価の動き	・現在、客の購入態度は前月同様あまり変わらない状況である。客単価は上がっているが、買上点数は今一つ伸びていない。食品の一部については原料高から通常品より上がっており、より特売品の動きが良くなる傾向にある。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・食品メーカーの商品値上げが発表されたが、まだ店頭価格には反映されていないため前年と変わらない客単価に落ち着いている。また来客数もほぼ前年並みに推移している。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・生活必需品は一部値上がりがあったものの、買上率は前年同月並みに推移している。また、酒や菓子などの嗜好品は前年同月を下回る状況で推移していることから、景気は横ばいであると思われる。
スーパー（統括）	お客様の様子	・客の様子は、近年6月については、天候が良ければ客は買物に来るし悪ければ来ないという、通常の梅雨時期と状況は変わらない。また、時間帯においても、通常のピークが夕方6～7時頃であり、客の状況は変わっていない。
コンビニ（店長）	それ以外	・梅雨時期であるが、雨はあまり降らず空梅雨気味である。店の売上のみを考えると晴天が多いほど有利であり、6月の売上は前年同月割れをすることは無かったが、前年同月比で1%弱のみのプラスとなった。前年は通常の梅雨であり、今年は空梅雨であることを考えると、もし今年の梅雨にしっかりと雨が降っていた場合、間違いなく前年同月比割れを起こしていたように感じている。なお、純利益は前年同月を割っているが、前述したように、売上は前年同月とほぼ同様である。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の中に、まとめて買い上げる人が少し増えてきたが、3か月前の状況とほとんど変わらない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・景気回復に対しては、客はまだまだ懐疑的であり、財布のひもを緩めるといふ行動はみられない。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・変化が無いという前月の回答と同じような状態が続いていると判断している。客の話、金融機関の話などを聞いていると、どちらかというとも景気は下降気味であるが、数字に変化は無い。報道されているような上げ潮ムードは全く感じられない。先日上京したが、東京と地方の違いを感じたため、ある程度行動を慎重にしなければと思っている。
衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・来客数の減少もさることながら、来店しても購入に結びつくまでが厳しくなっている印象を受ける状況が続いている。
家電量販店（管理本部）	販売量の動き	・暑さから夏物商品は好調だが、全体の販売量は変動が無い。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車を発表したが受注量はあまり増えていない。他社でも新しい車の投入があったが、地域全体としては販売量が増えていないようである。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金のあった前年同月に比べると県内の登録台数は2割の減少で推移しているため苦しい状況ではあるが、アベノミクスによる心理的な効果が購買力維持の面でプラスに作用している。
自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・今月に入り、集客面でも前年同月比で減少している。加えて、単価も依然低迷している状況である。特に、タイヤやナビゲーションは低価格志向で、今まで不人気の海外製の安価商品を求める客も増えている。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・新築需要などで客は動いてきたように思われるが、景気自体が良くなっているわけではないように考えている。無理してマイホームを購入するが、決して給料が上がって余裕ができたわけではない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・物が売れない状況は変わらず、非常に景気が悪い。とにかくどうしたら良いのか分からない状況が続いている。世間は株高で沸いているが、この業界では低迷している。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	競争相手の様子	・販売量の動きからみると、競争相手が安売り競争を行っている状況が続いている。

	その他専門店 〔医薬品〕（総務担当）	来客数の動き	・空梅雨気味で日焼け止めの動きが活発であるが、低価格品が中心である。害虫駆除、虫刺されなど季節品は例年通りで推移している。一方、来客数は例年並みで推移しているが、相変わらず財布のひもは固い。
	その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・春先に好調だった衣料品が、天候不順もあり苦戦している。その余波もあり、靴や服飾品の販売量も前年同月を下回った。一部、高級品やし好品に堅調さもみられるが、まだ足元の消費に回復傾向はみられない。
	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・全体的には大きな変動は無いが、前年12月も散々だったが、法人関連の接待利用が7月の参議院議員選挙を控え、6月中旬から激減している。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・円安の影響かインバウンドの客が増えているが、全体としては変わらない。
	都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・前月に引き続き宿泊、レストラン、宴会各部門とも前年同月を上回る売上を維持している。
	都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・今月は前半が良かったが、後半は失速気味であった。平均すると前年同月と大きな変化は無い。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売額、取扱件数、人員とも前年同月を上回ってきているものの、更なる上積みへの勢いが感じられず、まだまだ様子見の状況が続いている。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・3か月前に比べて、弊社サービスメニューにおいて、高価なコースの申込数や加入申込数が増えたなどといったことは無く、客の反応は特段変わっていない。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・引き続きインターネット契約における大手通信事業者との競合が一段と厳しさが増しており、プロバイダ乗換えを理由とした解約が増加傾向にある。
	競輪場（職員）	来客数の動き	・3か月前と比べ、1日当たりの来場者数は0.5%減少した。
	その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・毎年恒例の夏休み特別教室の申込が思ったように伸びていない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・4～5月は厳しい月だったが、今月は来客数が前年をクリアしてホッとしているところである。
	住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・消費税率引上げの影響による駆け込み需要が新築およびリフォームで多い。
やや悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・例年夏場になると魚屋としてはいわゆる夏枯れになる。魚の種類は減少し、単価も下がる。今年は特に6月に入ってから来客数が減っている。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・景気が悪かったころのように顧客のみる目が厳しくなり、財布のひもが徐々に固くなっているようだ。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は1年以上下落傾向が続いており、一方、来客数は前月より下落傾向が続いている。特に、来客数に関しては、競合店の影響もあり、大きく落ち込んでいるが、その傾向がしばらく続くような感じである。
	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・前年同月比で、金曜日や土曜日の深夜帯の来客数が激減している。また、天候にも恵まれたが前年同月割れをしている。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・6月の車の販売台数は前年同月比75%であった。今年の3月の販売台数は前年同月比85%であったので、3か月前と比較すると低下している。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・客との会話において、株のみが独り歩きし実態は決して良くはないとの声が多い。また、大手機械メーカーにおいても、得意先を含めて決して良くはなく、ただ一部の業者だけが良いとのことである。当店も特別に良かった前年同月と比較すると6.5割といった感じであり、低空状態にてさまよっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・市を挙げて行った百万石祭りの時は忙しかったが、その他の日は夜の街を始めとして閑散としていた。全体としてやや悪かった。
悪くなっている	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が次々発売されているにもかかわらず、他社への乗換えが進む一方、在庫不足の状況もあり、全体的に販売数が伸び悩んでいる。
企業動向関連 (北陸)	良く なっている やや良くなっている	-	-
	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・衣料分野は代わり映えしないが、非衣料分野の受注が増えつつある。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・海外や国内からの受注が出てくるようになった。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の6月末受注高累計は、同月の受注が公共工事において前年同月より大きく増えたことにより、民間工事を加えた全体でも増えた。しかし、中身は国土交通省工事の受注のみであり、県や市の工事は不振であった。	
	司法書士	取引先の様子	・通常築2年くらいで値引きが始まる分譲マンションが、「値引きしなくとも引き合いが多い」という理由で、値引きせずに販売している。そのほか、新築物件や住宅建築のための土地購入の案件が多い。	
	税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き	・関与先でいうと、建設業や設備工事関係ではある程度の単価の値上げが認められている先が何件かみられるようになった。ここ十数年みられなかったことである。中小企業のなかでも付加価値が高まってくる兆しであろう。また、価格面においては、今までの値下げ傾向が収まってきた感じがする。	
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・自社の高額商材から最寄品の100円均一商材まで、ここ数か月は同様の物量が市場に流れていて、環境はほとんど変化が無い状況である。	
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高是正で引き合いが増えているが、受注についてはなかなか増えてこないのが現状である。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・少し景気が良くなっている感があり、売上の微増はしているが、まだ伸びているとまではいえない状況にある。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・民間工事は依然として、低価格受注の業者が一部に見受けられ、厳しい価格競争が続いており、採算を確保しての受注に苦戦している。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・アベノミクスにより景気が上向きといわれているが、個人消費は一部の高額商品のみが騒がれており、一般消費は世間が騒いでいるほど動いておらず、物量も活発に動いていない。	
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・物の動きに特に変化はみられない。燃料価格は少し下がったが、まだ高い水準で止まっている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・アベノミクス効果もあり、以前と比べて景気への期待感や実態の需要はやや上向いた傾向にあるが、そこからの更なる上向きは今のところ感じられない。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の皆さんに聞くと、3か月前と同様、少しずつ忙しくなっており、また、個人客の問い合わせも多くなっている。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・来年の消費税率引上げに向け、住宅不動産関連のチラシ出稿量がやや上向いてきたが、本来のものではないような感がある。	
やや悪くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・今後の受注量の確認のため、仕入先の材料や部品メーカーの何社かが来社したが、どの会社も業界全体のさらなる物量の減少を嘆いている状況であり、数か月前よりもさらに悪くなっている様子である。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (北陸)	良く なっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年同月と比較すると2割程度増加している。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月と変わらず専門職の求人数は増えており、希望時給額に近づいてきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、有効求人ともに増加傾向が続いている。有効求人倍率も前年7月以降1倍を超えた水準で推移している。懸念材料としては正社員の求人倍率が上昇しないことである。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・欠員の補充での需要は発生しているが、雇用増員計画の話題はない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・前年の同時期と比較すると求職者数は増えている。しかし、3か月前と比べると求人者数は良くなっているわけではない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は宿泊業や飲食サービス業で前年同月比52.7%、建設業で同16.6%増加し、製造業では同28.5%減少した。全体では同11.3%の増加となった。この流れに変化は無い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が増加している業種も一部にはみられるが、全体的には、製造業を中心に依然として求人数が減少している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人件数は横ばい状態が続いている。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行につき、平均で50件ほど求人件数が減った。

	民間職業紹介機 関（経営者）	求人数の動き	・プログラマーやC A D設計関連の依頼はあるもの の、対応可能な要員が少なく、ミスマッチが続いてい る。また、事務系求人が増えていない。
悪く なっている	-	-	-